三重混声合唱団あんだぁれ７０通信
２０１９年度　Ｎｏ.２　秋～冬号
発行：三重混声合唱団あんだぁれ７０
編集：広報担当　（平井澄、亀井、小泉）
２０２０年２月発行
ホームページ　https://andare70.jp

三重混声合唱団 あんだぁれ70

清々しく令和２年が始まりました。
新年早々のアンサンブルコンテストでは、緊張感とワクワク感が交錯した中で各チームが元気な歌声を響かせました。
素敵なピアノ連弾とコーチの先生方の素晴らしい歌声に酔い痴れながら幸福な時間を共有することができました。
ありがとうございました。

ピアニストからのメッセージ

星合智美先生

５歳の時から始めたピアノ。でも、本当に音楽の楽しさを感じたのは、高校生の時に出会った稲葉祐三先生による合唱の世界でした。そして、馬場先生と出会って、更にその世界が広がったように感じています。周囲を山で囲まれた白山町から出てきた私に、音楽はたくさんの出会いを与えてくれまた。

そして、昨年６月からまた新たに「混声合唱団あんだぁれ 70」の皆様との新たな出会いが始まりました。何事にも積極的で一生懸命な皆様と、また新しい音楽を創っていきたいと思っています。末永く、よろしくお願い致します。

秀平雄二先生

あんだぁれの仲間に入れていただいてから早半年が経ちましたが、お稽古の度、皆様の熱い心のこもった音楽に、惹き込まれています。「音楽が好き、歌が好き」というお気持ちがストレートに伝わってくる魅力ある演奏を、更に盛り上げられるように、私も頑張ります。これからどんな音楽に出会えるか、ワクワクドキドキです！

○四日市合唱祭に参加して

○「市民合唱祭」では「あんだあれ」の歌声をより楽しく幅広く感じて頂けたのではないでしょうか。　特に「～乾杯の歌～」では、ソロの先生方と一緒に舞台いっぱいに華やかに、とても楽しく歌えました。　普段コンサートに足を運ばない方々の来場もあり「あんだあれ」を印象づけたようで合唱祭への参加はよかったですね。また、他の合唱団の素晴らしいハーモニーにも感動しました。　（ソプラノ　能登智津子）

○8月に入団させて頂き、市民合唱祭が初舞台でした。すごく心配でしたが　皆さんに支えられ歌えたことすごく嬉しかったです。♪言葉は♪の曲の練習の時、馬場先生から次々とご指導があり歌うたびに心が震えました。こんなふうに深くほりさげて、歌を作っていくんだな　これが合唱なんだなって本当に感動しました。まだまだ未熟な私ですが　ほんとに入団させて頂いてよかったです。これからも　しっかり　考えながら　その曲に向き合い少しでも上手くなり楽しんで　歌っていきたいと思います。　（ソプラノ　辻　とも子）

音楽ちょっぴり知識　ア・カペラ　（<イタリア>　a cappella）　（ デジタル大辞泉用語解説）

《礼拝堂ふうに、の意》楽器の伴奏を伴わない合唱曲。また、その様式。パレストリーナなどの宗教的合唱曲など。転じて、無伴奏で歌うこと。無伴奏の合唱、独唱の意でも用いられる。

2020 年度アンサンブルコンテスト大会　1.19（日）

毎回アンサンブルの練習が始まるとチームの皆さんと仲良くなります。そして練習を通して最初は不ぞろいだった音程・リズムが少しずつ合うようになりますその過程も含めてアンサンブルの魅力に触れられる事に喜びと醍醐味を感じます。次回のメンバーと曲目、新しい出会いが楽しみです。　（明和チーム S　河戸満代）

音楽用語で、アンサンブルを引くと、少人数での合唱演奏における、調和の具合と出てきます。私達、元禄チームは、馬場先生の御指導もあり、この点に拘り、特に、Ave　Maria では、個を出来る限り抑えて、お互いの息遣い、声に聴き耳を立て、お互いの顔を見合わせての演奏に努めました。講評では、これらの点を評価頂き、1 位となることが出来、全員で、信じられないと、素直に喜び、景品のお菓子や料理を美味しくいただきました。これからも、素人らしく、全員の調和に拘った演奏をして行けたらなーと思っています。
（元禄チーム B　井上正秀）

喉はカラカラ、顔は火照り、頭はぼ～っと、過緊張で始まった一日。気を付けるべきことがぐるぐると頭を巡る。そして本番、「精いっぱいやった！」「でも、もっとできた気がする…」「また、頑張ろうっと！」練習当初、他のおとを聞く余裕はなく、ただ必死なだけだった私。でもコーチや先生からの客観的な指摘やメンバー同士の助言で叙情にアンサンブルを担う自覚が生まれたのかな。怖いけど又やってみたい貴重な経験に感謝です。
（天平チーム S　片岡千都子）

朝、緊張の面持ちで集合。何度も合わせ、本番。その後おいしいお酒とコーチ陣の素晴らしい歌唱に酔い、結果はどうであれ、達成感を味わう…。毎年繰り返される光景ですが、回を重ねるごとに「アンサンブルする」ことの意味や楽しさが少しずつ分かってきました。今後に繋げていきたいと思います。　（大化チーム S　横山貴代子）

男声合唱曲『雨』によせて　　（バス　木村　哲美）

新しい合唱曲の楽譜が手渡された、八木重吉作詞、多田武彦作曲『雨』である。詩を読んだ瞬間、短いしかし深い・・・男声合唱組曲「雨」は、明治大学グリークラブからの委嘱作品として昭和４２（１９６７）年２月に作曲、同年５月、外山浩爾氏の指揮により初演された。
雨の来る前／武蔵野の雨／雨の日の遊動円木／雨　雨／雨の日に見る／雨、の６曲から構成された組曲である。最後の六曲目が八木重吉の『雨』である。

雨のおとがきこえる　　雨がふっていたのだ　　あのおとのようにそっと世のためにはたらいていよう
雨があがるようにしずかに死んでゆこう

この短い詩の中に漢字は、雨と世と死だけが使われている。ここに生きる意味が見えるのは私だけではあるまい。この詩人は結核に侵され、1954 年わずか２９歳で妻と２人の子を残しこの世を去った夭折の詩人である。敬虔なキリスト教徒で、晩年はほとんど病臥の中での作家活動であった。雨の詩にある「雨」は「天」の掛詞であると思う。雨があがるようにそっと神の御許に行こう。病床にある重吉の深い祈りである。立派であるまえになりふりかまわず優しい人でありたい。そして、この曲を自分への鎮魂歌として、死後に歌ってほしいと思ってしまう。

今年も成功させましょう！！

5 月 31 日	８月３０日	９月２０日
歌のトライアングルＰＡＲＴⅡ	オペラ「おしち」	四日市市合唱祭

【団員の動向（前号以降　2020.2.15 現在】（敬称略）
入団：Ｓ辻とも子、Ｓ今村万里子、Ａ加藤千景、Ａ小田美穂、Ｔ井上俊也、Ｔ花角道朗
復団：Ａ稲葉淑乃
新たに休団：Ａ石川麻実、Ａ山田里美、Ｔ西脇祥貴、Ｔ坂本重昭、Ｂ加藤政和、Ｂ山口輝
退団：Ｓ長谷川恵理子、Ｓ伊藤赫子、Ａ大河内暁子、Ｂ向山文夫

【編集後記】あんだぁれ通信を年２回発行に変更しました。久々の通信です。あんだぁれ 70 は年々、メンバーの平均年齢は上がってきているが、その活動は若々しい。馬場先生のバイタリティーについていくのに、息を切らしているけれど、団員各自がお互いにエネルギーを補い合って心地よいハーモニーを奏でていきたいですね。（編集担当：平井澄子、亀井由美子、小泉義夫記）